

◆ 栃木聖化交友会々長に聞く

栃木聖化交友会の現況と、 現在思っていること

インマヌエル宇都宮教会牧師 山田 田

隆



栃木聖化交友会は途中、新出発のやむなき事情を越えて、通年で十年間、一八回の聖化大会を開いてきました。個人ではお招きできそうもない諸教団の指導的な先生方をお招きでき、蘊蓄を傾けてのメッセージやお証しに大変恵まれてきました。

現在、栃木聖化委員は基督兄弟団(3)、ホーリネス(2)、インマヌエル(1)で構成されています。大会には大体一〇〇名前後の出席者があります。以前は年二回大会を開いてきましたが、互いの教団教会の重要な集会とかち合いがちなので、五月の日曜日午後一年一回の大会を、

教会持ち回りで開く方向で進んでいます。このところ講師は、趣向を変えて委員の当務で順番に当たることを試み、第一回を昨年五月二一日に

実施いたしました。好評でした。

委員の交わりは大会を前後にして年四回ほど持ち、親しく交わり、互いに色々の事を教えられつつこの面でもいつも楽しみが多いのが、私たちの交友会の特色でしょうか。

現在、基本的な学びとしてトーマス・クックの『新約の聖潔』を一章ずつ読んで委員会ごとに学んだところを証しする事にしており、この点でも益を受けています。

聖潔は聖書全体の語るところですが、聖化交友会の運動もそこにあります。以下、自戒を込めて考えていることを述べます。

聖化はヨハネ第一の手紙一章7、9節にあるように、すべての罪から潔められることが主張点です。これは伝道者も信徒の方々も持たねばな

らないものであり、また伝道牧会上の実際問題でもあり、主要眼目です。

ところが昨今、これを鮮明にする事から腰が引けていないかを恐れます。この恩寵に消極的になることは、聖書のおことばに対する信仰の薄弱化を意味します。ひいてはイエス・キリストの十字架の贖いの宝血が、内住の罪までの聖潔にはさして有効でないとの逆証になりかねない結果を恐れます。

聖潔によってはじめて可能となる神と人に対する第一、二の戒めを徹底することが教界内にも、対世にも求められているように思われます。



第15回聖化大会教勢・財勢

教 勢

月 日	集 会 名	集会人数
10月16日(月)	セ ミ ナ ー I	260
	レ セ プ シ ョ ン	56
	講 演	305
	聖 会 I	417
10月17日(火)	女 性 大 会	452
	セ ミ ナ ー II	304
	神 学 生 交 歓 会	99
	聖 会 II	444

財 勢

集会名	席上献金	予約献金	合 計
聖 会 I	333,089	888,000	1,221,089
聖 会 II	426,995	305,000	731,995
セミナーII	203,190	130,000	333,190
女性大会	475,481	1,044,000	1,519,481
合 計	1,438,775	2,367,000	3,805,755

聖会Ⅰ 『生ける水の川が流れ出る』

ウェスレー・デュウエル博士

ヨハネの福音書七章三七―三九節
I 歴史的背景

ここに描写される仮庵の祭には最も多くの人々がエルサレムに集まっていた。祭りの最後の日の朝、祭司はシロアムの池の水をおけに満たし、数千の巡礼者を従えて、神殿に戻ってくる。祭司は祭壇に近づくトラランベツトが鳴り、水が注がれ、詩篇が賛美され、人々は一節ごとに「ハレルヤ」と合唱する。最後のハレルヤが終わると、「神に感謝しよう」との叫び声上がる。この瞬間に、主イエスは前に進み出て招きのことを発せられたと思われる。

II あふるる恵みの神
イザヤは、御霊に満たされた信仰者を「砂漠にある水の流れ」（イザヤ三二章二節）にたとえて預言した。「荒野に水がわき出

し、荒地に川が流れるからだ。焼けた地は沢となり潤いのない地は水のわく所となり」（イザヤ三五章六一七節）とあるように、その流れは外にあふれるほどのものとなる。

III 聖なる流れ
神は、私たちの人生にあふるるばかりの恵みと聖霊を注ぎ、周囲の人々に対するうらおい、祝福、力となることを願っておられる。そして御名の栄光のためにそれをなして下さる。神に不足はなく、天の供給は尽きることはない。神に信頼し、従い、尽きない恵みの泉に飛び込もう。

①愛の川
愛は目に見えるもの。愛は心にとどまるだけでなく、愛は言

葉、行動に、顔に表われる。人々はそれを見、それを感じ、それによって祝される。

②喜びの川
主の恵みと力によって、どこにでもキリストの聖なる喜びをもたらす。

③平和の川
ホーリネスは私たちの生涯を平和で満たす。私たちを通して平和の輝きが放たれ、心の平和が人々にもたらされる。

私たちの地上での役割がどうであれ、内側から生ける水の流れ出ることが切なる願いである。謙虚、善良さ、平安、愛の流れが私たちの教会、家庭から流れる姿を見たいと思う。あふれ出る愛こそ聖書が約束している恵みである。今晚渴いている方はいないであろうか。主のもとに来て飲もうではないか。（寺村秀嗣）

タビユー・一口あかし□

毎回、出席するたびに教えられまもいいですネ。」「神に献身していいですネ。」(S兄)

◆「大会全体の出席者の中で、青年層の占める割合が少ないですね。何とかしたいですね。」(P兄)

◆「講師のウェスレー・デュウエル博士のお元気なこと。80歳をこえてるんですってね。私もがんばらねば…。」(A老人)

第15回聖化大会（東京）報告

昨年10月16日(月)ー17日(火)の両日、ウェスレー・デュウエル博士を主講師としてお迎えした第15回聖化大会（東京）は、淀橋教会で開催され、大いなる恵みとチャレンジを頂きました。その聖会メッセージの概要を報告します。

聖会Ⅱ 『飢え渴く者は幸いです』

ウェスレー・デュウエル博士

I 主に飢え渴く

きよめ派の中にはマルタやベテロのようにイエス様の足下にじっと座っていられないほど、忙しく奉仕する人々がたくさんいる。しかし、私たちに必要なのは、主の膝元でじっとすわるマリヤや主を愛し、主に憩うヨハネのような在り方ではないだろうか。ヨハネは常に主を愛し、主に関わり、主と一つ心になっていた。それは主が母マリヤに十字架の上で彼にゆだねるほどに信用していたことから分かる。ヨハネが常に、主のそばにいたい、主をもっと知りたいという飢え渴きをもっていたように私たちも主に飢え渴くものではない。

II たましいに飢え渴く

主への全き愛に満たされている人ほど、人々を主のもとに導

きたいと強く願うものである。

罪に失われている者の救いのために涙を流しているであろうか。

主はエルサレムのために切なる祈りをささげられた（マタイ二三章三七節）。同じように日本にも御手を広げて、「東京よ、わたしは、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。わたしはここにいるのだ」と祈り、さらに多くの日本人をみもとに集めようとしておられる。イエス・キリストは、たましいに対する飢え渴きと愛において、とこしえまでも変わらない。韓国のムーディと呼ばれたロバート・チャンの祈りのカードには「たましいを与えて下さい。さもなくば死を。」とあった。たましいに対するこのような愛と渴きを私たちも持たたい。主の手は反逆の民に対して一日中差し

伸べられている（イザヤ六五章二節）からである。

III リバイバルへの渴き

今日、世界の至る所にリバイバルに飢え渴くさまざまなグループがある。もし私たちが主のために道を備えるなら、世界中に再び力強いリバイバルを、神は必ず送ってくださると私は信じる。聖霊は私たちの期待に裏切るような方ではないからである。

二十世紀初頭の世界大のリバイバルは一人の炭鉱夫の祈りから始まった。彼はリバイバルのために十三年間祈ったと言われる。私たちはリバイバルに飢え渴いているであろうか。リバイバルを送ってくださるよう、大切に願う者となろう。主がこの日本、また皆様を祝して下さるように。（寺村秀嗣）

□聖化大会出席者へのイ

◆「一昨年の大会は『淀橋効果』といいますか、新装になった淀橋教会を見に来ようという人もあってか、多くの出席者でしたが、今回若干少なかったように見え、残念でした。でも、こんなにも恵まれたホーリネス・ピープルの中の聖化大会はとてもよかったです！」（I兄）

◆「『女性大会』が恵まれました。です。」（M姉）

◆「『神学生の合同コワイア』は、いる者がかもし出すスピリットは違

地域だより

岡山聖化交友会が「交友会」として初の大会を

一九九九年二月、「岡山聖化交友会」が正式

に発足しました。大会としては「岡山聖化大会」時代に過去三回開催し、恵みを受けました

が、今回規約を定め、交友会として更に聖化の拡大のために宣証したく願ひ新しい歩を進めました。今年の十月に「交友会」として

最初の聖化大会を計画し、お祈りしつつ準備に当たっています。

会長は初め、鈴木一郎先生でしたが、今年健康上の理由で辞退され、さる二月二十三日の総会で二代目の会長として、

工藤弘雄先生（日本イエス・キリスト教団香登教会）が選出されました。

ほかに役員として、

*副会長 太田正信先生（日本福音教会連合

岡山勝栄教会）、丸山孝治先生（日本イエス・

キリスト教団神の国教会）

*会計 永松清先生（日本ナザレン教団岡山

教会）

*書記 戸谷芳朗先生（インマヌエル岡山教会）も選ばれました。

大会としては前述のように、今年の十月二十一日（日）と二十二日（月）、岡南教会を会場とし、各地の聖化大会の主講師でもあられるロバート・コールマン博士をお迎えしての集会を予定しています。

前会長の鈴木先生が願っておられたように、今後、岡山県下の聖化を追求する教会に呼びかけ、聖化に対する聖書の深い学びと研鑽を通して聖化交友会の輪が県内のみならず、中国地方や四国全体にまで拡大していくものになりたいと望んでいます。

（今年三月の全国評議員会にて報告）

第16回東京大会では、 青年牧師たち主導によるプログラムが…

今年第16回聖化大会（東京）では、青年層への拡大ということも視野にいれ、特に30—40代の青年（？）牧師たちを中心にして、初の試みとなるプログラムを企画しています。第2日目（10月16日）午後に分科会を、同夜の聖会には開始20分間ほど「シングスピレーション」（ナザレン神学校のグループ＝リディア・クラブの指導）を持ちます。特に分科会のテーマは「21世紀に生きるきよめ」で、その具体的内容としては、

- ①「聖化の再発見：青年へのアプローチ」
- ②「自分らしく生きるためのきよめ：きよめられても私でいられるの？」
- ③「きよめられても日本人？：聖化と日本社会」
- ④「教会を建てる：聖化との関連に於て」

各分科会では発題があり、その後更に小さなグループでのディスカッションを行います。乞ご期待！

総務リポート

マ「聖化」第30号をお届けします。「聖化」もついに、30号を数えるまでになりました。皆様の多くのお祈りとご協力でここまで至ることができました。心より感謝いたします。今後も聖化の宣証と拡大のために貢献する機関誌でありたいと願っています。また、今年も全国各地で行われる聖化大会（主講師 羅バート・コールマン博士）のためにお祈りします。

（係）